

事 務 事 業 評 価 シ ー ト

評価対象年度	平成 24 年度
--------	----------

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	観光アクセス推進事業費			
担当課係名	観光 課	観光 係	作成者	阿部 聡
総合計画での位置づけ	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち		総合計画のページ 28
	基本計画	観光誘客体制の整備と観光資源の掘り起こし		
	主要施策	観光客受入態勢の整備		
予算費目	一般 会計	7 款 商工費	1 項 商工費	3 目 観光費
事業期間	平成 18 年度 ~ 平成 27 年度		新規/継続の区分	継続
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理			
根拠法令等	仙北市総合計画			
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務			
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直 営 <input type="checkbox"/> 直営（一部民間委託） <input type="checkbox"/> 民間委託（全部） <input type="checkbox"/> 補 助			

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	仙北市を訪れる観光客等
事業の目的・意図 (どのような状態にしたいのか)	二次アクセスがない交通不能地域に利便性のある交通手段を確立する
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	交通事業者の協力により二次アクセス網を確立させ、観光客の増加に資する。 松葉～田沢湖周遊タクシーの運行を、生保内観光ハイヤーに委託。（事業費の1/4は事業者負担）

【事務事業の推移】

項 目		単 位	23年度実績	24年度実績		
			23年度決算額(千円)	24年度決算額(千円)		
効果	活動指標	目標	人	1,150,000	1,150,000	
		実績	人	541,254	573,931	
		達成度	%	47.1%	49.9%	
	成果指標	目標	人	600,000	600,000	
		実績	人	411,352	367,110	
		達成度	%	68.6%	61.2%	
投下コスト	項 目		総事業費	23年度決算額(千円)	24年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)		—	474	425	
	人 件 費 (B)		—	8,479	8,286	
	職 員 数		—	1.00	1.00	
	職員平均人件費		—	8,479	8,286	
	(A) + (B) 投下コスト		—	8,953	8,711	
	財源内訳	国 庫 支 出 金		—	0	0
		県 支 出 金		—	0	0
		地 方 債		—	0	0
		そ の 他		—	0	0
		一 般 財 源		—	8,953	8,711
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	17	15	
	市民1人当たりのコスト(円)		—	301	296	

【事務事業の今までの成果】

事業着手後利用者数は伸びを示していたが、ここに来て利用数は鈍化してきている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	県においては類似の制度（4遊パス）を確立させ、誘客に努めている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	二次アクセス導入については肯定であるが、使用実態が観光以外の実例もあることから、全般的には理解が得られているか不透明な部分が多い。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
B 3	A 現状のまま継続（実施）	運行事業事業者を交え、複数ある制度を統一させて運行を講ずるべき時期に至っていると考ええる。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

運行事業者を交え、ニーズにあった運行形態を確立させるべきである。

【二次評価】

判定	判定に至った理由
B 3	二次アクセス網を確立することは、観光客や市民にとって利便性を高められると考えられるが、ニーズに合った運行形態や、複数ある類似制度の統一を検討するべきと考えます。

一次評価診断図

